

「新たなタイプの学校」について

1 第3期県立高校将来構想での記載

《【資料2】22ページ》

第4章 高校教育改革の取組

2 未来を拓く魅力ある学校づくり

(2) 学びの多様化への対応

② 学び直し等への対応

近年では、不登校経験者や中途退学者など様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が増加しています。このことから、義務教育段階の学習内容の定着が十分でない生徒等に対する学び直しをはじめとした様々なニーズに応える新たなタイプの学校の設置を検討します。また、少人数授業の展開や学び直しに対応するカリキュラムの編成など多様なニーズへの対応を推進します。

さらに、学習意欲の喚起や自己有用感の高揚などを図るため、学校医やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、地域の関係機関などと連携し、生活指導や進路指導などにおける個別支援体制の充実を図ります。

2 学習指導要領における「学び直し」の位置づけ

学習指導要領では、いわゆる「学び直し」は、「第1章 総則」,「第2款 教育課程の編成」の「4 学校段階等間の接続」において、教育課程編成に当たっての配慮事項として以下のように規定されている。

(2) 生徒や学校の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすること。

ア 各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること。

イ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図りながら、必履修教科・科目の内容を十分に習得させることができるよう、その単位数を標準単位数の標準の限度を超えて増加して配当すること。

ウ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした学校設定科目等を履修させた後に、必履修教科・科目を履修させるようにすること。

3 他都府県の事例

他府県においては、上記で規定しているような学校として以下のような学校が設置されている。

都府県名	名称	課程	学校数	特徴
		学科		
東京都	エンカレッジ スクール	全日制	6	①30分授業 ②1学級2人担任制，習熟度・少人数授業 ③スタディガイダンス（始業前の10分学習） ④キャリアガイダンス ⑤体験学習（学校設定科目） ⑥学力試験なし，作文と面接のみ。
		普通科 工業科		
	チャレンジ スクール	定時制 (多部制)	5	①不登校・中途退学者を対象 ②学力試験，調査書なし。 作文と面接あり。 ③体験学習や実習の重視，教育課程の弾力化 ④地域に開かれた学校
		総合学科		
千葉県	地域連携 アクティブ スクール	全日制	4	①少人数・習熟度別授業 ②学び直しのための学校独自の科目を設定 ③外部講師活用等による実践的なキャリア教育 ④地域との連携
		総合学科		
神奈川県	クリエイティブ スクール	全日制	5	①基礎・基本の学力の定着 ②キャリア教育の推進 ③地域との協働
		普通科		
	フロンティア スクール	定時制 (多部制)	2	①生活指導を重視 ②学び直しの視点を含めた学校独自の科目を設定
		普通科		
大阪府	エンパワメント スクール	全日制	8	①30分授業や習熟度別授業 ②映像の活用やドリル教材を活用した授業 ③グループ学習や参加体験学習で人間関係力を育成 ④進路に応じた学習内容と資格取得 ⑤相談体制の整備
		総合学科		

4 課題

○不登校経験者や中途退学者など様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が増加していることから、義務教育段階の学習内容の定着が十分でない生徒等に対する学び直しのニーズが高まっている。

○本県では、現状で学び直しは各校がそれぞれの生徒の実態に合わせて実施しているが、他府県の事例を見れば、学び直しに関して体系立てた授業を行う学校を設置している。